



# Case Study

Customer 道の駅なみえ様

## 「ESL」導入で業務効率化と売上UPを実現

2021年3月にグランドオープンした福島県浪江町の「道の駅なみえ」。福島県浜通り(沿岸部)の北部に位置する浪江町は、東日本大震災の原発事故の影響で、一時は約21,000人いた住民が全員避難を余儀なくされました。その後、避難指示が解除された地域への帰還や新たな移住が進み、現在人口は約2,000人を数えます。復興・発展を続ける町のシンボルとして、地域とともに歩み続ける道の駅なみえ様は、2023年5月に道の駅では初めてTERAOKAの電子棚札(ESL)1,600枚を導入。その経緯や効果について、支配人の菅家清進様にお話を伺いました。

01

### 煩雑な棚札作り。レジデータとのズレでクレームになることも

道の駅なみえ様では、商品の棚札を手作業で作っていました。「棚札を作る作業は手間がかかります。お客様を飽きさせないために商品を入れ替えることも多く、値上げラッシュによる価格変更も増えてきて、現場の負担となっていました。人によって棚札の大きさやデザインがまちまちになることもあり、統一感のない売り場に見えてしまうことも課題でした」

それだけでなく、レジデータと棚札の価格がずれてしまい、商品をレジに通したとき「棚札より値段が高い」とクレームになることもあったといいます。また、この地域ならではの課題もありました。

「浪江町は80%が立ち入り制限区域で、その中で運営していくとなると、まず人手不足が問題になります。加えて昨今、労働基準も厳しくなっています。残業・経費の削減や、現場スタッフの作業負担軽減は、オープン前から抱えていた課題でした」





## ESL で商品が見やすく 売り場がきれいに

「ESLに興味を持ったのは、スーパーマーケット・トレードショーがきっかけです。月額払いのサブスクリプションで使用でき、運営経費にませやすいことも、本格的な導入検討に至ったポイントです。電子棚札を導入すれば、昨今の値上げラッシュにも対応しやすくなると思いました」

実際に導入された後は、どのような効果があったのでしょうか。

「売り場がきれいになって、商品が見やすくなりました。売り場がきれいだと商品を手にとってもらいやすくなるので、売上も右肩上がりです。問題になっていたレジと棚札の価格の相違もなくなりました。棚札に関する業務を軽減でき、今後は試飲や試食など他の施策に充てられる時間も増えてくると思います」



## 変わりゆく町のステージに合わせて、 観光や移動の「ハブ」、人と人の 「交流拠点」となる存在になりたい

今後は、どんどん変わっていく町のステージに合わせて、道の駅も変化していきたいと話す菅家様。

「来てくれるお客様や地域住民の声に耳を傾け、サービスも充実させて、みんなから愛される道の駅になっていきたいです。引き続き、「わざわざ行ってみたい道の駅」を目指し、観光や移動時のハブ的な存在として、人と人の交流拠点となるような場所にしたいです。

浪江町はゼロから生産者を増やしているところで、漁に関しても取り決めがあり、なかなか地元のものを集めることができないのが現状です。それでも、できないならできないなりにお客様が立ち寄ってくれる戦略を日々考えています。全国1億2千万人も一周したら、1億2千万人で終わりです。記憶に残る商品を取りそろえ、リピーターを増やしていきたいです」

TERAOKAは、地域とともに復興へ歩みを進める道の駅なみえ様を引き続きサポートしてまいります。

### Customer Data



MICHINOEKI  
NAMIE

#### 道の駅なみえ

- 〒979-1513  
福島県双葉郡浪江町大字  
幾世橋字知命寺 60
- michinoeki-namie.jp



### Product Info

#### 電子棚札 (ESL)

サブスクリプションで導入ができ、正確な売価表示と作業効率化を実現する電子棚札 (ESL) です。



#### HappySelf G3

対面セルフレジ、フルセルフレジ、セルフ精算機の3機能を1台に搭載した「マルチセルフレジ」です。



お問い合わせ